

We are developing a bustling, energetic tourism infrastructure, one linked to the town's agricultural and commercial sectors, creating a network integrating the town's historical, cultural and tourism resources with its talented residents and information technology.

CONCEPT 4

人がにぎわい活力あるまちづくり

地域特性を活かした農林水産・商工業の振興を図ります。

首都圏に近い地の利を活かし、消費者の多様なニーズに対応した競争力のある農業の確立を目指すとともに、グリーンツーリズムなど都市部との交流を通じた地域の活性化、地産地消による安全・安心な地元農作物の生産振興を図っています。

また、環境保全への対応として家畜排せつ物の適正な管理対策に取り組みながら、ブランド性の高い畜産物の生産振興を目指しています。

林業においては、生産基盤の整備や八溝材のブランド化を図るとともに、森林が持つ多様な機能を活かした余暇・レクリエーション活動を推進するなど、森林の多目的利用を促進しています。

商工業においては魅力ある商業空間の整備や商店街活性化事業の推進とともに、産業、学校、官庁連携による起業創出やIT産業を含めた優良企業の誘致に努め、町民の雇用の場を創出しています。



ホームページで旬な観光情報を公開



鮎と鱒のつかみどり大会(那珂川町夏まつり)

歴史・文化・観光資源を有効活用した この町ならではの産業振興を目指します。

本町には緑と清流に恵まれた豊かな自然環境をはじめ、古代から受け継がれてきた歴史文化資源、温泉やゴルフ場、キャンプ場などのスポーツ・レジャー資源など、この町ならではの魅力的な観光資源を有しています。

また「那珂川町馬頭広重美術館」を核とした新しい観光ルートを開発するとともに、特産品の開発や郷土料理の掘り起こしなど、地域の特性を活かした観光サービスを充実させ、交流人口の増加と地域経済の活性化を図っています。

また、ホームページを通じた観光情報の提供や隣接自治体と連携した広域的な観光施策を推進させ、“交流”をキーワードにした地域の活性化に努めています。



「八溝材」のブランド化を推進



グリーンツーリズムによる交流

コラム

COLUMN

芋焼酎の開発など地産地消を
活かした新たな特産品づくりを

和見サツマイモ栽培研究会

小高 公平さん



「サツマイモ栽培研究会」では、地産地消の芋焼酎づくりとしてサツマイモの栽培を始めました。この研究会は「和見村おこし協議会」の仲間が中心となって結成されたもので、地区内の遊休農地に「ベニアズマ」を1ha作付けしました。収穫されたベニアズマは、地元の酒造会社で醸造され、原料の生産から製造まですべてが町内産の新たな特産品・芋焼酎になりました。今後は、収量を増やす研究を進める一方、栽培農家とも協力して産地化を目指していきます。



町で誘致した企業

CONCEPT 5

豊かな自然と共生するまちづくり

広域的な視野に立って自然環境や生活環境の保全対策を図ります。

豊かな自然や環境の保全・活用に関する施策を「自然・環境との共生推進プロジェクト」と位置づけ、大切な財産である豊かな自然環境を保全し、住民・事業者・行政が共に知恵を出し合い、共に行動することで豊かな自然と共生するまちづくりを推し進めています。

また、自然環境や景観保全のために無秩序な開発を防止し、土地利用の適正化を図るとともに、土地利用計画を踏まえた総合的な自然環境保全のための基盤整備を進めています。

さらに、自然とのふれあい活動や保全活動、環境美化活動を充実させることで町民の自然環境に対する意識を高め、環境に配慮した生活行動のできる人づくりに努めています。



御前岩(大山田 下郷) ※



小学生がヤマメを放流するなど、自然とのふれあい活動や保全活動に力を入れています。



※

循環型社会の実現に向け、あらゆる分野で環境に配慮した施策を推進します。

さまざまな環境問題が悪化している今、地方自治体においても環境への取り組みは早急の課題になっています。本町では「大量生産・大量消費・大量廃棄社会」に代わる循環型社会の構築を目指し、「リデュース(ゴミを出さない)」「リユース(再使用する)」「リサイクル(再生利用する)」の3Rを官民一体となって推進するとともに、地球温暖化防止に向けた省エネルギーや省資源などの活動を促進させ、町民の環境保全への意識啓発に努めています。

また、行政と町民の協働によりゴミの不法投棄ゼロを目指した施策を強化し、適正な廃棄物処理対策を推進しています。



リサイクル活動(大内小学校)



棚田(健武地内)

コラム

COLUMN

女性ならではの視点でゴミのリサイクル活動を推進

新町下商店会女性部

山田 スミさん

自然環境や循環型社会を考えて廃油や空き缶、空き瓶などのリサイクル品を利用してお金をかけないキャンドル作りに挑戦しています。



ご本人は一番左

作業の中でもっとも苦労したのがキャンドルの芯の作り方でしたが、試行錯誤していく中で会員の心の繋がりがよりいっそう強くなりました。これからもこのキャンドルの炎のように、明るく温かいまちづくりに女性ならではの視点でいろいろチャレンジしていきたいです。



CONCEPT 6

改革への道－行財政改革の推進

1 町の背丈に見合った地方自治の確立と健全な財政運営ができる「小さな行政」を目指します。

行財政改革に関する施策を「行財政改革推進プロジェクト」と位置づけし、財政の健全化、自主財源の確保、財源の重点的・効果的な配分を図り、財政運営の質的充実と効率化を目指しています。

合併による職員数の適正化を図るとともに、縦横断的で機動性に富んだ新たな行政組織を構築し、また、自立した自治体運営を確立するために職員の人材育成に努め、政策形成能力の向上を図っています。

すべての公共施設・事務事業においては毎年度、実施計画を策定し、「計画・実行・検証・見直し」のサイクルによる進行管理を行うとともに、統廃合や民間委託等を推進させ、事務の効率化と質の高い行政サービスの提供に努めています。また、那須烏山市との連携を図り、広域行政事務組合における共同事務処理の拡大を促進しています。



杉本益三議長

石田彬良副議長



川崎和郎町長

泉 正夫助役

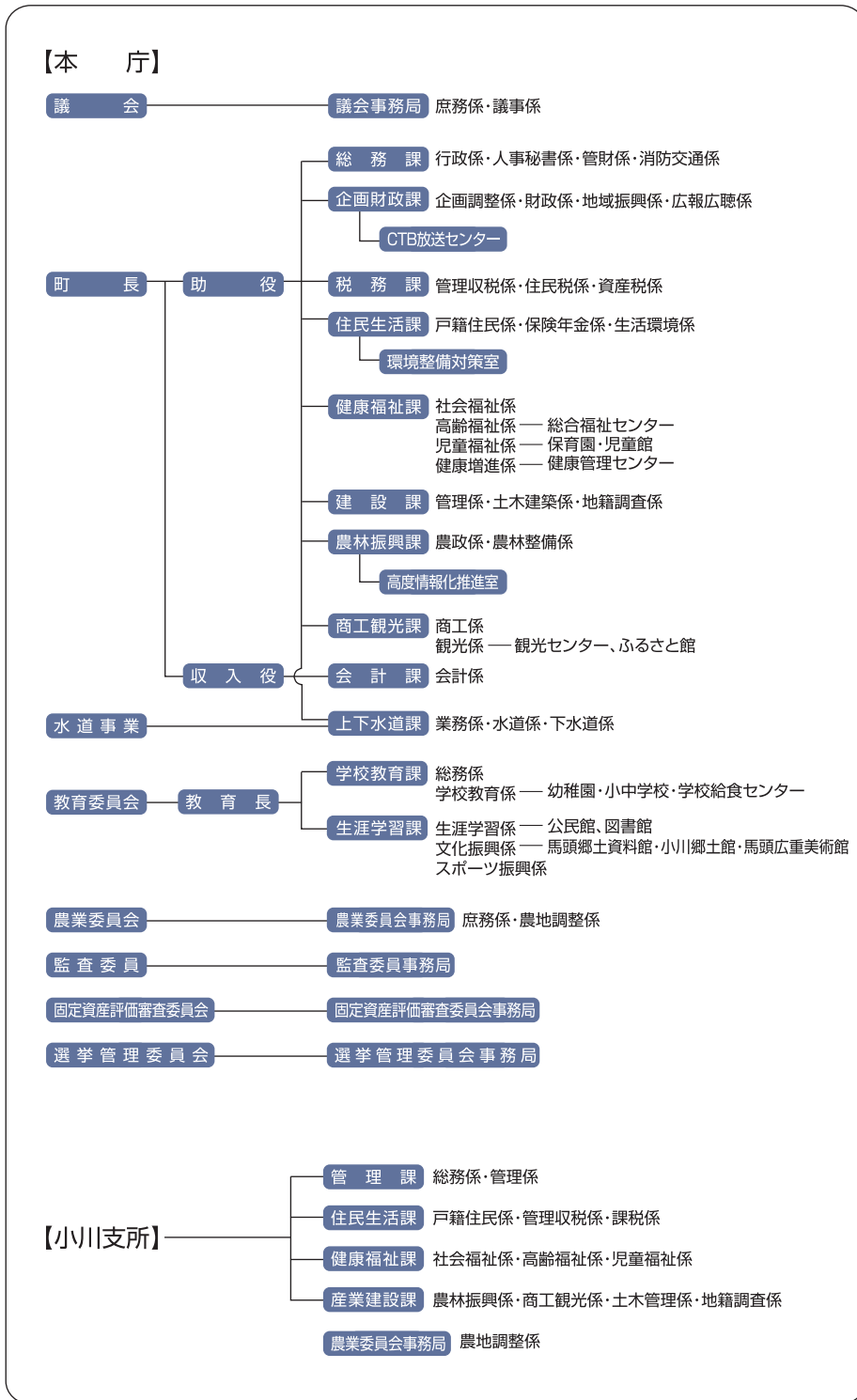
岡 忠一収入役

藤田和夫教育長



那珂川町議会議員

那珂川町の組織図



本庁



小川支所

合併へのあゆみ

【平成16年】2004

- 10月26日 ●馬頭町・小川町の合併に関する調査研究会設置
- 11月 9日 ●2町住民アンケート調査公表
- 11月12日 ●町議会臨時会で馬頭町・小川町合併協議会設置を議決
- 11月16日 ●馬頭町・小川町合併協議会設置
- 11月22日 ●第1回馬頭町・小川町合併協議会開催（以降、平成17年9月22日まで12回開催）
- 12月 1日 ●新町の名称候補募集開始

【平成17年】2005

- 1月19日 ●新町の名称が「那珂川町」に決定1,573点（643種）の応募作品の中から協議により決定
- 3月13日 ●馬頭町・小川町合併協定調印式
- 3月17日 ●馬頭町・小川町議会定例会で合併関係議案を議決
- 3月23日 ●県知事へ2町の廃置分合を申請
- 5月 1日 ●新町の町章デザイン募集開始
- 6月16日 ●栃木県議会で合併（那珂川町）議案を議決
- 6月20日 ●県知事が2町の廃置分合を決定
- 7月14日 ●官報に2町の廃置分合が告示（総務大臣告示）される
- 7月28日 ●新町の町章デザイン決定393点の応募作品の中から服部信浩氏（愛知県）の作品に
- 9月19日 ●馬頭町で閉町式
- 9月25日 ●小川町で閉町式
- 9月30日 ●「馬頭町・小川町合併協議会」を廃止
- 10月 1日 ●「那珂川町」誕生

CONCEPT 6

改革への道－住民参加・協働の推進

2 「自分たちにできること」を基本とした役割分担で町民と行政による協働のまちづくりを進めます。

「地方のことは自らが決定し、その責任も自らが負う」という新時代に向けた地方自治の確立が求められています。また、地方においては行政ニーズが増大する一方で、人口の減少、厳しい財政状況など、これまでの行政主導のまちづくりは困難な状況にあります。そこで本町では、地方分権社会に対応した町民と行政が共に考え、地域の実状にあったまちづくりを進めていこうと「地域住民との協働によるまちづくり」を推進しています。

また、情報の共有化とコミュニケーションの強化を図るべく、情報公開や情報提供を積極的に推進していくとともに、住民の意向を行政施策に反映させるべく、広報・公聴の充実とパブリックコメント制度の確立を目指しています。さらに、地域の自治組織の活動支援、ボランティア活動、NPOの育成支援策などにも積極的に取り組んでいます。



広報・公聴の充実と、パブリックコメント制度の確立を図ります。

よりよい町をつくるために —— 現在、活動中のボランティアグループです。 ——

図書館ボランティア



現在、図書館を拠点に活動する「おはなしボランティア」は5グループあり、合計25人が活躍しています。紙芝居や絵本の読み聞かせを通して、

おはなしや本の楽しさを伝え、本に親しんでもらおうと定期的に「おはなし会」を実施しています。毎回多くの子どもたちが参加し、本との出会いと共に、地域や世代を超えた交流の場になっています。

農村生活研究グループ



私達は、昔から伝わる季節ごとの伝統行事や伝統料理を掘り起こし、地域の良さや伝統文化を次世代へ継承するとともに、

食の大切さ、安全・安心な食生活を推進しています。また会員相互の親睦を図りながら、男女共同参画を推進し、個々の資質向上に努めています。